



# みやぎアピール大行動2022 実行委員会

# News

発行／みやぎアピール大行動実行委員会事務局  
メール：appeal318@hotmail.co.jp

2022.12.16. FRI No.33

＜4病院再編移転・統合問題＞県立精神医療センターの富谷市移転

県議会議員有志勉強会「デメリット大きすぎる」



4病院再編問題～県立精神医療センターの富谷市移転を巡り、12/14（水）県議会11月定例会閉会後に県議会議員有志の勉強会が開かれ、県精神科病院協会の岩館敏晴会長が講演を行いました。県議会議員15名が参加しました。

精神障害者のくらしと医療を考える仙南ネットワーク  
県立精神医療センター移転問題を考える連続学習講演会＜第2回＞

2022年12月17日（土）13:30～15:30  
「精神医療センター移転問題 ～不都合な事柄～」  
講師 小泉 潤 先生（名取メンタルヘルス協会理事長）  
ミーティングID：838 8293 9083  
パスコード：1217





## 宮城県精神神経科診療所協会 村井知事宛「宮城県立精神医療センターの移転改築計画に関する公開質問」

Q1. 宮城県立精神医療センターが担ってきた役割や機能について宮城県立精神医療センターは長年にわたって地域コミュニティとの連携を図り、精神科医療や障害福祉の発展に寄与してきたと思いますが、この点で現在の県立精神医療センターが県南地区でこれまでにどのような役割や機能を担い。このことを宮城県としてどのように評価しているのかを具体的にお教えてください。

### 【県回答】

県立精神医療センターは、全県にわたる精神科救急医療や児童思春期精神科医療を提供するとともに、昭和32年の名取病院の開院以来、長い年月をかけてグループホームなどの社会資源との連携体制を築き、地域移行を進めるための協議の場や訪問看護などの実践を通じて、知見や経験を積み重ねているものと認識しており、特に県南部において大きな役割を果たしてきたと評価しております。

他方、精神医療センターの将来に向けた役割や機能に関しては、県の高度精神医療を担ってきたセンターとして、精神科救急医療や児童思春期精神科医療について、全県を視野に充実を図っていくことが求められております。

これに加え、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築や、災害時の精神科医療体制の確保、さらには、研修機能の充実にも県全体で取り組んでいくことが求められております。

Q2. 移転後の仙南地域の地域精神医療体制について

県立精神医療センターは長い年月をかけて地域との信頼関係を築き、地域に根差した精神医療を構築してきました。作業所、グループホーム、訪問看護ステーションなどと連携しながら、すでに地域包括ケアシステムを実現しています。長年かけて築かれたこの地域精神医療体制は、移転後、どのように引き継がれるのか、その見通しについてお教えてください。

### 【県回答】

御質問のありましたとおり、県立精神医療センターでは、長い時間をかけて、グループホーム等の社会資源との連携体制が築かれ、通院外来や訪問看護がきめ細やかに行われてきました。

県としては、患者や家族の方々が必要なサービスを継続して受けられる体制が重要であると考えておりますので、地域の医療機関との連携や、人材育成にも取り組みながら、関係者と十分に調整を図ってまいります。

Q3. 移転後の仙南地域の急性期入院治療について

県立精神医療センターは仙南地域の基幹病院として精神病圏の急性期入院治療に対応してきました。移転後、仙南地域における急性期の精神医療体制はどのように担保されるのか、その見通しについてお教えてください。

### 【県回答】

県立精神医療センターは特に県南部において大きな役割を果たしてきましたが、県の高度精神医療

を担ってきたセンターとして、全県を視野に充実を図っていくことが求められております。

県としては、東北労災病院と合築することによる一般病院との連携強化や精神科救急体制の強化を図る方針としており、加えて、精神医療センターの移転候補地は県の中央部に位置し、県内各地からの道路ネットワークによるアクセスが良く、従来の県南部からの患者の受入れに加えて、県北部等からの民間病院では対応の難しい患者の受入れができるものと考えております。

#### Q4. 移転後の県内の精神科救急について

移転により、精神科救急患者の搬送距離は仙南が遠くなり、仙北が近くなり、沿岸部はあまり変わらないと予想されます。移転による精神科救急のメリットをどのように見込んでいるのかお教えてください。

##### 【県回答】

精神医療センターが移転することのメリットにつきましては、総合病院との合築による身体合併症を伴う患者への対応力の向上を含め、精神医療の基幹病院として全県をカバーする精神科救急医療体制を強化することができると考えております。

精神医療センターは、県内唯一の精神科スーパー救急を備えた病院ですが、近年の救急搬送件数を見ると、仙台医療圏で7割、仙南医療圏で1割程度、大崎・栗原医療圏と石巻・登米・気仙沼医療圏はとも1割に満たないものとなっております。現在富谷市から提案を受けている移転候補地につきましては、県の中央部に位置し、県内各地からの道路ネットワークによるアクセスが良く、従来の県南部からの入院患者に加え、全県からの入院患者の受入れが可能になることが重要だと考えております。

#### Q5. 移転後の身体合併症・複数疾患への対応について

現在、身体合併症・複数疾患への対応については仙台市立病院、東北大学病院、国立仙台医療センター、東北医科薬科大学病院、安田病院などが行っています。移転後はこれらの病院に労災病院と合築した県立精神医療センターが加わると理解していますが、そのことによるメリットをどの程度に見込んでいるのか、お教えてください。

##### 【県回答】

精神医療センターでは、単独では対応が難しい身体合併症について、総合病院との連携体制の構築が課題となっておりますが、精神医療センターの移転・合築による新病院との密接な連携により、円滑な救急対応や医師・看護師の相互の往診等が可能となり、従来では対応できなかった複雑な身体合併症にも対応できる精神医療体制の強化が図られるものと考えております。

また、合築によって医療施設や機器の共同利用や研修医の相互交流などのメリットがあるほか、異なる病院間であっても、一時退院など必要な手続きを行うことで、単一の病院と同様の対応ができるものです。

なお、岩手県では、精神科病院である県立南光病院と総合病院である県立磐井病院を合築し、両病院の隣接のメリットを生かした対応を行っており、このような事例も踏まえながら、円滑に連携できるよう引き続き検討を進めてまいります。

#### Q6. 移転後の地域において代替の難しい①精神科デイケアや作業療法、②クロザリル治療後の外来治療、③児童思春期外来、④医療観察法にかかわる指定通院医療機関、⑤措置入院退院後の地域連携、⑥重度かつ慢性患者の地域ケアなどの外来機能について、移転後、県南地区においてどのように引き継がれるのか、その見通しについてお教えてください。

##### 【県回答】

現在、県立精神医療センターは、県南地域において、外来から入院、退院後まで、訪問看護事業や地域のグループホーム、市町等を含めた多様な職種、職域と連携した体制により、ご指摘のような様々な外来機能にきめ細やかに対応しているものと認識しております。

精神医療センターが移転した場合のこれらの機能の維持については、地域の医療機関や関係機関等と十分に協議し、移転後の精神医療センターの有する体制との連携、補完を踏まえながら、必要な機能の維持に努めてまいります。